

星を映す仕組み大解剖！プラネタリウムの裏側大公開

7月2日、天文セミナー「プラネタリウムの裏側～星を映す仕組み～」が行われました。プラネタリウムのオープン30周年記念事業として、プラネタリウムの歴史や投影技術の発展と最新の技術について知っていただいて、もっとプラネタリウムに親しんでいただきたいという想いで企画しました。

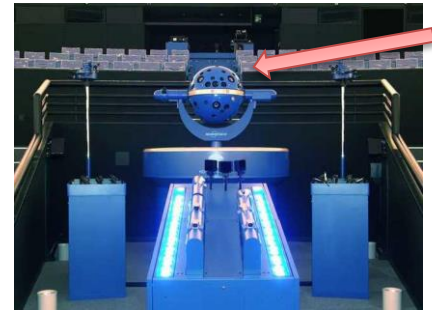
とよた科学体験館のプラネタリウムはコニカミノルタプラネタリウム株式会社製のもので、講師はその技術者の高橋さんと伊藤さんです。まず、プラネタリウムの歴史を聞き、その後は星が映

し出される仕組みについての説明がありました。普段は見ることができない機械の内部が開いた時は、どよめきのような歓声が上がりました。機械の中はとても複雑で、精巧につくられていることを知ることができました。

また、デジタル映像の映し出される世界の紹介もありました。最後は、お客様に実際に解説台に座って機械を操作してもらったり、機械の部品などを実際近くで見たりと、まさにプラネタリウムの裏側をすべて見る事ができました。

「貴重な体験ができて良かった」と多

くの方に喜んでいただけました。とよた科学体験館には素晴らしいプラネタリウムがあります。ぜひ、遊びに来てくださいね。



この機械を開けました☆

なにがいるかな？じゃこのなか

7月18日に海の日特別企画として「じゃこ調査隊 3分間チャレンジ！」を開催しました。ルールは簡単で、3分間でちりめんじゃこに隠れている生き物を探すというものです。じつは、じゃこというのは、特定の魚を指すわけではなく色々な稚魚の総称なのです。一般的なじゃこは出荷前に選別を行うためほとんどがカタクチイワシの稚魚ですが、選別前の状態には様々な生き物が隠れています。今回はできるだけ多くの発見をしてもらえるように無選別じゃこを用意しました。

さて、実際にじゃこを調べてみると、想像以上に様々な生き物の子どもが混ざっていることに驚く方がほとんどで、子ども以上に熱中する大人の方もいました。また、大人と子どもでは目の付け所が違うため、親子で結果を比べてみる、なんて場面もありました。

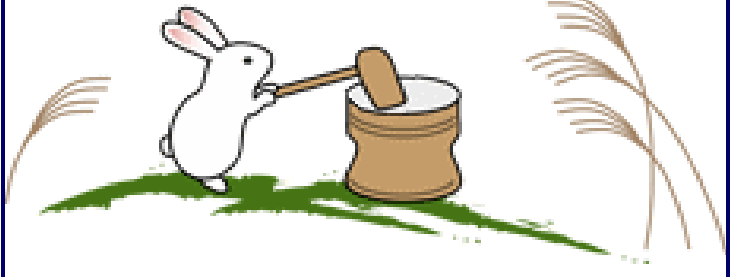
時期や産地によっては、じゃこの中に深海魚や南方の生き物が紛れていることもあります。皆さんもじゃこ調査を通じて身近なものからの発見にチャレンジしてみませんか。



★天文トピックス 『月を見あげよう』

秋は月の話題でいっぱいです。今年の9月15日は「中秋の名月」（旧暦の8月15日の月）です。9月17日午前3時54分には、満月となり「半影月食」が最大となります。9月から12月の毎月上旬には「新月」「三日月」「上弦（半月）」「満月」への変化が日没後に見られ、夕方の空で惑星の「土星」や「火星」「金星」との共演も楽しめます。

ところで、今年の11月14日の満月は、68年ぶりの大きな満月「スーパームーン」です、ぜひ肉眼で、一番大きな満月をお楽しみください。次に今回と近い大きさのスーパームーンが見られるのは、18年後の2034年11月26日になってしまいます。



しんちゃん復活！新メンバー加入も“笑劇サイエンスショー”

8月3日～7日、夏休み恒例の笑劇サイエンスショー「まさかの摩擦」が行われ、のべ1,964の方に楽しんでいただきました。豊田市で活躍するお笑い劇団「笑劇派」が当館でサイエンスショーをするのは、今年で4年目になります。笑劇派から昨年に引き続き「あかねちゃん」と「はるかちゃん」、最終日には「なんぺいくん（座長）」、当館から「むしめがねくん」が新加入、一昨年からの復活出演した「しんちゃん」と代わる代わる出演しました。

今年は「摩擦」という難しいテーマを、身近にあるお米、スリッパ、雑誌などを使い、お笑いを交えながら実験を進めていきました。雑誌の摩擦でお米が持ち上がると、歓声が上がりました。

